

桑名文化協

平成22年3月15日
第 27 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
http://bunkyo-kuwana.jp

新春六華苑祭

初春のひと時

茶華香道部門

谷 古 宗 正

(遠州流茶道)



月釜茶会は毎月開催されていますが、一月に開催される新春六華苑祭の月釜茶会だけはいつもとは少し違ってきます。今年のお茶会は遠州流担当で、一月十七日に離れ家にて開催されました。

当日は洋館で音楽会やダンス、和館で和楽器の演奏会、番蔵棟では美術展などが開催され、多くのお客様が来苑されました。
この日は、ふと来苑して茶席に入られた方から、作法の全く御存じない方、一度も抹茶を召し上がったことのない方、外国からお越しになった方など、様々なお客様が当日券をお買い上げ頂いて茶席にお入りになりました。また、他の催しに参加されている文化協会の方々も時間の合間を縫ってお越



新春六華苑祭に参加して

芸能I部門 渡 邊 雅 子

(春琴会)

今年も、天候に恵まれ、楽しい「新春六華苑祭」でした。箏曲「春琴会」として、毎年参加させて頂いておられます。六華苑の格式ある一の間での演奏は、市民会館の舞台とは異なり、すぐ目の前に多くの来苑者が見える中での緊張感と共に心引締まる思いでした。

今年の演奏曲目は、三上澄恵作曲の「紀伊乃旅」で、尺八との合奏で、舟唄調子も入り、のんびりとした情景を描き、楽しく演奏することが出来ました。

さて、今年の芸能I部門の出演は、十二団体で、昨年よりも六団体になり、初春の一期一会を楽しんでおられました。

茶道は、決まった作法でお茶を召し上がるだけではありません。掛物、お花、道具組みなど、それぞれに意味・いわれを持ち、「茶道は総合芸術」といわれるように日本の伝統文化全てに通じています。今後、茶道を通じて各分野との交流を持ち、文化協会が発展することを願っています。

体減りました。又、舞踊団体の参加が無く、少し寂しい内容となりました。これは、一の間が狭いこと、また、他部門の参加が多く、控え室の確保が十分出来ないこと、また、この時期は、他の行事と重なる等課題が多くあると思います。来年の「第七回新春六華苑祭」にはこれらの課題を少しでも解決するため、実行委員会で智恵を出しあい、来苑されます皆様楽しんで頂ける内容にしていけたらと思っております。私達春琴会も稽古に励み、皆様に楽しんで頂ける演奏を心がけたいと思います。



市民芸術文化祭を終えて

「美術部門展を 終えて」

美術部門

近藤 茂樹

(全日本写真連盟はまぐり支部)



写真部門が担当しています。確か私が前回係わったのは大山田コミュニティプラザを会場として使用していた数年前の美術展で、会場設営に四苦八苦した記憶があります。今やメディアライヴでの展示は回を重ね6回目となり、協力して頂く各部門の会員皆様も要領を心得ておられるようでスムーズな搬入、設営ができました。展示作

品は127点で会場のスペースは広からず狭からずといったところでしょうか。見応えのある展示作品が今年も多く出品されました。レベルの高い作品群は、会員さんの日々の努力と、技術に裏づけされた創作感性により生み出されました。そして形あるものに昇華され芸術品となり晴れ舞台に登場します。来る人、観る人は少なからずとも心の片隅に小さな感動と心地よさを覚えて会場を後にされた事でしょう。その幸運を味わえた人の数は630です。

桑名市民の数からはとても小さな数ですが、私たち関係者からすれば大変有難いことです。今後は1000：2000人と来場者を増やす企画運営を皆様と一緒に考えていきたいと思っています



います。

芸術文化を愛でる沢山の市民が我が桑名市にも居られます。せちがらい世の中、無縁社会といわれる悲しい世相にはそれこそ無縁の人と人を繋ぎ心暖かくする芸術文化のパワーで、会員皆様の心意気で、今年も市民展を盛り上げましょう。

「伊勢湾台風」の 舞台を終わって

演劇部門

片山 敦子

(劇団すがお)

伊勢湾台風から50年を記念して平成21年9月26日(土)に私たち桑名演劇協会は合同公演「伊勢湾台風・9月26日―50年のバトン」を桑名市民会館大ホールで上演いたしました。出演者総数50名以上、観客は約1000名という多くの方々にご覧いただけました。

その中には台風の被害に遭われた方やまったく伊勢湾台風を知らない人々等さまざまでした。中でも当時の建設省、今の国土交通省の職員やそのOBの方も何人か見

ていただき、感動したとの感想を頂きました。また、桑名少年少女合唱団の子供たち30名余にも出演いただき、「愛のピアノ」コンサートシーンを盛り上げてくれました。そして命の大切さを強く観客に訴えた、感動の舞台を創ることができました。



市民芸術文化祭を 終えて

趣味教養部門

平屋敷 恒子

(糸模様)

まず初めにお礼を申し上げます。
平成七年以来続けている文化祭での芳名録に、殆ど毎回記名のあるお客様が大勢おられます。毎年その芳名録を見て案内状の宛名書きをしている私は、住所氏名を暗記したのにお顔を知らないのでもまだお礼を申しあげていないのです。会場か街でお客様から声をかけて下さったらお顔を覚えて直にお礼を申しあげたいのですが、今回は紙上でお礼を申しあげます。本当に有難うございました。会場まで足を運んで下さる事で私共は又頑張った次の作品を作ろうと目を輝かします。

二〇〇六年に十年以上続いていた展示会もそろそろ終わりかともと思いきい有終の美を飾るべくファッションショー「くわコレ」を催したところ、予想外に多くのお客様から拍手を頂き、結局その後毎年催

しています。ショーは原則自作自演なので障がいをおもちの方も八十才の方も、家族の二才児も出演しています。ファイ・フラ・オ・レイアロハ桑名支部の渡辺先生をはじめメンバーの皆様がボランティアでモデルをして下さった事は特に感謝しています。「くわコレ'09」も会場は満席に近く、又新聞やケーブルテレビにも取りあげられ嬉しく思っています。



くわなコレクション '09



「新春懇親会」

音楽部門

鈴木 英一

(桑名マンドリン倶楽部)

一月十六日(土)、桑名市文化協会新春懇親会が桑名シティホテルで催されました。

昨年十月、桑名マンドリン倶楽部は平成二十一年度桑名市文化功労者として表彰を受けました。冒頭でその旨の紹介をしていただけると伺っていましたがアトラクションの参加も兼ねて初めて出席させていただきました。

倶楽部を代表しての挨拶ではさすがに緊張しましたが、教育長、教育部長をはじめ文化協会の皆様にも受賞の御礼を申し上げることが出来ました。セレモニーも終わり和やかな雰囲気での会食が進み、間で私達もマンドリン演奏を行いました。小編成のアンサンブルでしたのでボリューム面で少し心配しましたが、後半には演奏に合わせて出席者の歌やコーラスが加わり会場は大変盛り上がりしました。



料理もお酒も沢山いただき、他部門の方とも少しですがお話することも出来ました。文化の発展・普及と唱えることは勿論大事なことです。桑名の文化を支える皆様と交流が出来るこのような集まりに出席することも大切であると思う一時でありました。

四日市文化協会

「新春の集い」に参加して

副会長

今村 和子

女声コーラスのやさしい歌声と共に、四日市文化協会の「新春の集い」は四日市都ホテルにて開幕しました。

木村道山理事長のご挨拶では、四日市の市民文化祭が今年で六十回を迎えるとのこと、歴史の古さを感じ、我々の協会もずっと続いていくことを祈りました。

又、賛助会員の中に国会議員や市長、県会・市会の議員、文化関係の行政職員の皆さんが大勢入っただけで、「集い」にも参加されていきました。行政側の協力体制をうらやましく感じました。

法人の特別会員も多く、又、参加団体も二百五十を超えるとのこと、会員数は七千名以上だそうです。

「集い」の参加者はなぜか、茶道と伝統芸能の先生方が大半で、毎年一般の会員さんの参加が少な

いように思います。

夫々、各協会の特徴を出しながら、北勢地区の文化協会の連携を密にして、今後何か共催事業が出来ることを願いました。

色々のアトラクションを楽しんでいるうちに時間は過ぎて行き、すっかり日の暮れた四日市の街を後に家路につきました。



平成二十二年年度月釜・華道展日程表

とき 午前十時～午後三時半
 ところ 六華苑 離れ屋（月釜） 番蔵棟（華道展）
 前売券 七百円（入苑料込） 当日券五百円（入苑料別）

四月十七日（土）は、県民の日のため
 入苑料は無料となります。

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成二十二年 四月十七日（土） 十八日（日）	裏千家 （十七日のみ）	勅使河原和風会
五月十六日（日）	表千家流	池坊
六月二十日（日）	煎茶松風流	MOA山月光輪花
七月十八日（日）	松尾流	草月流
九月十九日（日）	裏千家	未生流中山文甫会
十月十七日（日）	遠州流	竹真流
平成二十三年 一月十六日（日）	表千家流	華道展はありません
二月二十日（日）	松尾流	小原流
三月二十日（日）	遠州流	石田流 いけばな池坊

桑名市文化協会育成補助金

の募集のお知らせ

◎ 応募受付期間

平成22年3月8日（月）～
4月9日（金）

（平成22年4月1日～平成23年
3月31日の実施事業分）

◎ 申請の制限

平成20年度・21年度に補助金を
受けた会員は交付申請できない。

◎ お問い合わせ

桑名市文化協会事務局
 （桑名市教育委員会 文化課内）

TEL 0594-24-1361

◎ 補助金の額

事業企画実施に要する交付対象
 経費の80%以内の額で30万円を限
 度とする。

◎ 応募の方法

文化協会事務局（教育委員会文
 化課内）で申請書類を受け取り、
 同事務局へ申請する。（文化協会
 のホームページからもダウンロード
 できます。）



現代詩

呼び水

現代詩やまぶき

堀川孝子

どんな言葉を入れたら
溢れ出てくるのだろうか
何かが生れ出ようとしている
如月の木の芽がゆるみたがってる

生まれたいのに
形にならないもどかしさ

呼び水の一言が見つからない夜は
ひしゃげた家の屋根瓦の隙間から
苔が覗いている古里へ帰ります

裏庭には

つるべを落とした井戸があつて
ポンプが取り付けられていました
母の汲み置いた水が
いちじくの匂いを放っています

ひしゃく一杯の水を注ぎ入れ
落ちる水の速さに心を合わせると
地下から引き上がって来る
重い手ごたえ
水は勢いよく溢れ出ます

私は水浸しになりながら
溢れ出た言葉をつなぎとめる

如月の空に水音が流れ
すくと立った
杉の梢が揺れています

らしさ

現代詩やまぶき

岡本妙子

思いきり泣けばいいのに
一番深いところへ仕舞いこんで
泣かないふりをしたまま

通り過ぎていったものは

いくら追いかけても追いつけない
逝ってしまった男の背中が
今も焼きついたまま

陽だまりに腰を下ろして
けじめのような
にがいお茶を飲む

胃袋に染み渡る粟粒は

やがてゆるやかに
甘さを残して
体の深いところを温める

こんなふう

背中を見つめて
生きてきたこと
決して後悔などしていない

絵を描いても字を書いても
そこに背中を見つめる
そして私を見つめる

すがりついてきた
らしさ…は

未来への遺言のような
そんな気がしている

短歌

信綱唱道の短歌を

文学部門 短歌

松井久雄

「ひろく、深く、おのがじしに」
の精神に則った短歌をうけついで
発展させていきたいと思っています。

〈白蓮〉

白蓮の展示に見いる人わけて羽織
のからす飛び発たんとす

へミニトマトアイコ

支柱たて茎ゆわえれば浅みどり縦
横無尺枝のばしゆく

黄の花に続きふくらむアイコの実
透き通る緑日ごと楽しむ

いつしかに人われよりも丈高し脚
立に乗りてアイコ結わえる

赤々と緑の陰に見えてきた房なし
ているミニトマトアイコ

一房に七つ八つの実が光る艶々と

してさかりならんよ

球たまでなく卵形なるアイコの実つみ
とりゆけば汗流れくる

(提言)

後継者の育成について

木原広志

私は二十代で川柳へ入門した。
幸いよき先輩や仲間にも恵まれ、
作句は五十年を越えることができた。

名古屋の文芸祭では、入賞へ毎
年児童、学生が登場する。しかし
進学や就職の闘いの中で葬り去ら
れるのが通常で、句会に若い人の
姿はない。

私たち川柳の例を見れば、大半
が定年になって始める人が多い。

昔は句会で知り合った二人が結
婚するケースもあったが、今は老
いらくの恋も見られない。

ところで会報には学生の作品が
掲載されるが、若い人を短歌へつ
なぎ止め創作を続けるよう文協も
支援してほしいと思う。

若い人の創作意欲が失せぬよう
育成していくのも文協の役割だと
私は思う。

どんな部門であっても後継者を
育てておくことは大切な事業だ。
現在だけでなく将来を見据えて
事業の計画をしてほしい。

川柳

会員近詠

寺本 三郎
灯を寄せて老境に読む三国志
ふる里の海はいつでも風を見せ
瀬古 博
人の知恵風から電気ひねり出す
手伝ってもらって増えた後始末
梶 泰栄
庭石に喜怒哀楽の顔がある
高卒を一億円で買う野球
川瀬 秋廣
機密費が家内にはれて追い込まれ
一年中旬の野菜で季節ボケ
水谷 真
海外で信頼される支援国
血税が他国支援で軽く飛ぶ
真田 五市
発酵が少したりない話
森 繁生
省と億縁がないが茶がうまい
丸洗いすれば地球も進化する
何が不満か包丁ばかり研ぐ
清水 健吾
空想で妥協している古希の恋
大火傷してから夢を描き直す
木原 広志
共犯で上寿司を取る嫁の留守
逃げ場なし寝るまで続く妻の愚痴

文句取辞典

くわな川柳会
木原 広志

老境へ入り江戸川柳へ興味を覚えた。ところがその中には謡曲、和歌、浄瑠璃、歌舞伎などからの文句取“が少なくない。
現在年寄りには溢れているが、それらに造詣の深い人は極めて少ない。
困惑する中で、「江戸川柳文句取辞典」を知り、早速手に入れた。値段もいいが内容もいい。特に、著者が私より若いのがシヨックであった。
以前、新聞社の芸能局長と名刺を交わした折、「川柳は歌舞伎を詠んできますか」と問われ狼狽したが、現在歌舞伎の詠める柳人は皆無に近い。
○やわらかい骨ばかり斬る簞釣瓶
大先輩はすばらしい句を残しているが、歳だけは重ねても私たちは足元にも寄りつけない。



短歌

一楓・山城顕彰短歌
小・中学生 短歌部門

金省枝短歌社
岩花 キミ代

じいちゃんの机の上に置いてある
めがねといちご麦わらぼうし
多度中 市川 晃平
サッカーで負けている時レフリー
の時計の音がなぜか聞こえる
城東 関村 峻
ぼくからの手紙をよんで泣いてい
るお父さんを見てほくもうれしい
日進 藤田 和樹
くやしいな現場学習えんきだよ鹿
にせんべをあげたかった
大成 清水 翔馬
上げ馬を成功させるかんせいは乗
り子をささえ力をあげる
多度西 石川 将成
新発見！すごい近道見つけたよそ
こを通ると心がはずむ
桑部 黒田 悠介
産まれたよ新たな命うれしいなし
っかりお世話ドキドキするよ
長島中部 山田 亜美
帰り道友と別れて歩くとき私は一
人歌を唄おう
益世 小倉 瑛美
リコーダー心と音のハーモニー友
とかなでてこぼる笑顔
在良 南川 佳菜

工具箱電球電池電流計電気関係ほ
くの宝だ
大山田東 酒井 棕

あと五分無情な声に空白の解答欄
がにやりと笑う
光風 加藤 佑基
「宿題が分からないの」と父親に
話しかけるの父の日だから
正和 山本 紗希
冬の夜家の明かりが消えはじめ静
かな町に雪ふりつもる
多度 伊藤あゆの
授業中早く終れと願っても時計は
時をあわてず刻む
陽和 佐藤 泰佑
先生が黒板をきれいにしていた
一つの思い出消していくように
明正 神田 悠乃
見上げればヒューッと上がりどん
と散るきれいな色で空のお絵描き
精義 中島 淑伶
将棋盤パチンとひびくあの音は詰
ませた時が特に快感
星見ヶ丘 岡田 祥一
土の中私に掘られじゃがいもはり
んごのように輝いていた
津田学園 石田 圭識
満月が高速道路を付いてきたまる
で蛭だ町の明かりが
陵成 水谷 怜貴
観覧車見上げるほどの頂上は誰も
が空に近づける場所
長島 加藤 巴沙

桑名地名あれこれ

北福江町と南福江町

社会文化部門
大河内 浩
(個人会員)

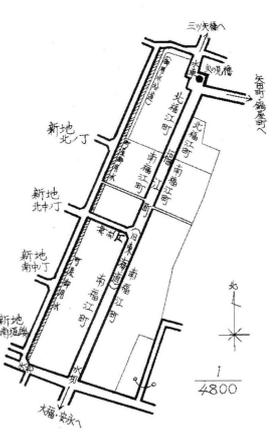
東海道を七里渡口から進んで行く、南西端、鍋屋町・矢田町に続き、大福・安永へ向かうところに福江町があります。参観交代で江戸へ向かうときは、ここから桑名市街へ入ることになり藩役員が出て警固にあたりました。往年このあたりは、本願寺・江場・矢田・大福の村々が非常に入り組んだところで、南北一条約一五〇間の長さの福江町も江場と大福の入会地いりあいちで、初めは江福町と称したところ、江戸時代中ごろに福江町と改称したことが旧記に見えます。

文政十一年(一八二八)に、それまで独自に石取祭をしていた東西鍋屋町・東西矢田町・南北福江町が桑名市街の石取祭に参加するようになりましたが、この頃は祭車二輛で、明治二十年代に合同で祭車を新造してから一つの町内となりました。北福江町と南福江町の境界は江場村地と大福村地の境界ですが、これを知っている人は現在では少ないと思います。町内

福江町北端、東海道八曲がり角に立つ火の見櫓
(往年の資料に基づいて平成三年に復元)



西側を通る町屋御用水は寛政三年(一六二六)に市民の飲料水に供するために引かれましたが、その沿岸の土手が公有か私有かで東京まで裁判に赴いたそうで、現在図面上でわずかに残る沿道が、狭小な北福江町の名残です。



平成21年度新入会員

(9月～2月)

○清隆書道会 (書道)

代表 松井 隆春

○加藤 幸男 個人会員 (陶芸)

○桑名ギタリスト倶楽部 (ギター)

代表 近藤 ナオ

○加藤 清貞 個人会員 (書道)



第18回総会のご案内

日時 平成22年5月9日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

会場 桑名市大山田コミュニティ

プラザ 中会議室

※各部門から代議員の選出をしていただきます。詳しくは、各部門長から連絡します。

編集後記

ここ四、五年暖冬といわれていますが、まだ寒い日が続いていますが、昨年は新型インフルエンザが世界的に大流行した中で桑名市民芸術文化祭、新春六華苑祭など盛大に実施されました。

さて、昨年より私のような素人が桑名文協の編集会議に参加することになりました。

各部門とも活発に活動されました。

市民皆さんも芸術、文化に一人でも多く参加しましょう。この活動を次の世代に未永く継ぎたいと思います。

(近藤光治)

広報担当副会長 中山 雅幸
委員 文学部門 木原 広志

美術部門 (水谷 真)
音楽部門 近藤 光治

芸能I部門 岡村 理恵
芸能II部門 渡邊 法子

芸能III部門 尾崎三千男
演劇部門 金田枝里香

社会文化部門 今枝 由佳
茶華香道部門 大河内 浩

趣味教養部門 白木 宗弘
加藤 誠